

氏名(本籍)	と ばり ひろ こ 戸 張 裕 子 (東京都)		
学位の種類	博 士 (医 学)		
学位記番号	博 甲 第 5187 号		
学位授与年月日	平成 21 年 7 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	医師－薬剤師協働による高血圧管理プログラムの有効性に関する研究		
主 査	筑波大学教授	公衆衛生学博士	我 妻 ゆき子
副 査	筑波大学教授	医学博士	青 沼 和 隆
副 査	筑波大学教授	博士(医学)	坂 田 由美子
副 査	筑波大学教授	博士(医学)	大久保 一 郎

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

### (目的)

本研究では、治療の有無にかかわらず、血圧高値を呈した患者に対し、医師と薬剤師が協働して非薬物治療を中心とした血圧コントロールを行い、さらに降圧薬服薬中の患者については、減量や休薬に至るまでの治療効果をめざした血圧改善のプログラムの有効性の検討を目的とした。

### (対象と方法)

研究は、ポピュレーションアプローチによるものと、ハイリスクグループへのアプローチの2つで実施された。循環器疾患が多発している集団として、日本における最大規模の調教管理施設である、美浦トレーニングセンターに勤務しているきゅう舎従業員を対象とした。まず、ポピュレーションアプローチとして、循環器疾患予防を目的とした職域での高血圧管理プログラムの実施（ポスターなどを用いた広報活動と血圧改善を促すお知らせを個人宛に送付する活動）とその効果を検証した。また、ハイリスクグループへのアプローチとして、高血圧症者に対する内科医－薬剤師連携による血圧管理の有効性に関するランダム化比較試験を行った。

### (結果)

定期健康診断の総合判定結果から、対象集団の有所見者率は約 60% で推移しており、全国あるいは茨城県のものとは比べ高かった。また、3年の調査期間中、対象集団人口 4,380 人から 4 件の循環器疾患による死亡、18 件の循環器系疾患発症があった、発症者の 7 割は正常高値以上の血圧値を示していた。職域での高血圧管理プログラム介入 2 年後の定期健康診断時において血圧値が低下し（収縮期血圧 - 2mmHg、拡張期血圧 - 1mmHg）、正常高値血圧者並びに高血圧者の割合が低下した（それぞれ - 16%、- 1%）。

ハイリスクアプローチ研究では、6 か月後の起床時家庭血圧において、ベースライン時の家庭血圧と Body Mass Index で調整した結果、医師－薬剤師介入群の収縮期血圧 / 拡張期血圧はベースライン時と比較して、平均 - 2.9 / - 3.3mmHg 低下した。また、介入群では対照群と比較して、降圧剤の漸減・離脱に成功したものの割合が高かった（31% vs. 8%）。

### (考察)

ポピュレーションアプローチでは、高血圧を医療機関にて治療する者の割合を増加することなく、血圧値

が低下した。しかし、この検討においては対照群を設定していないため、プログラムの効果を厳密に判定することは困難であった。また、飲酒や喫煙習慣に関して、改善効果は見られなかったため、その行動変容をも促すには集団への保健指導では限界があったと考えられる。ハイリスクグループに対して、個人面談による高血圧管理プログラムを実施したところ、医師－薬剤師介入群において減塩と体重減少が奏功し、起床時血圧の低下と薬剤の漸減を図ることができた。

#### (結論)

本研究から、医師－薬剤師が協働して血圧管理を推進することが有用であることが示された。

### 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究により、医師－薬剤師が協働し、一次予防主体の保健活動と二次予防である治療活動を併せた高血圧の管理を行うことの有用性が示され、国内外において新しい知見を示すことができた。ランダム化比較試験による医師－薬剤師の協働介入試験としては、世界でもあまり例がなく、今後のこの分野における公衆衛生的介入試験とその分析に意義を与えるものであり、その貢献は大いに評価される。この研究結果は、高血圧症管理に関するアプローチに示唆を与えたばかりでなく、今後、更なる効果的アプローチの指針を立てる上での疫学的エビデンスとなるものといえる。高血圧症重症化予防のための対策指針に寄与するための知見を得ており、更なる研究の発展が期待できる。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。